

令和6年度 第3回浜松市幼児教育推進協議会 議事要旨				
1	開催日時・開催場所	令和7年2月5日(水)午後2時30分から午後4時30分 ザザシティ浜松中央館5階大会議室		
委員・有識者	氏名(敬称略)	所属等	氏名(敬称略)	所属等
	1 島田 桂吾	学識経験者 静岡大学大学院教育学研究科准教授	8 河合 享子	市立小学校 中ノ町小学校校長
	2 山田 佳敬	認定こども園 まつばこども園園長	9 大橋 美弥	保育園・こども園保護者代表
	3 山崎 亜佐美	私立幼稚園 浜松学院大学附属幼稚園園長	10 名倉 哲也	幼稚園保護者代表
	4 竹内 映晴	私立保育所 まつきのき保育園園長	11 吉積 慶太	こども家庭部長(委員長)
	5 島田 さち子	地域型保育事業所 あいあい保育ルーム園長	12 奥家 章夫	学校教育部長(副委員長)
	6 恩田 かおり	市立幼稚園 伊平幼稚園園長	13 青島 治道	教育センター所長
	7 伊藤 寿美	市立保育所 三方原保育園園長	欠席 鈴木 波穂	認証保育所 ハレルヤ愛児園副園長
3	主な意見・質問等			
(1)「第3次浜松市教育総合計画後期計画」及び「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」に係る令和6年度実施状況の調査結果について				
<p>●「幼保小の連携体制」を中心に意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自園の地域では、幼小の連携がしやすくなっており、互いに意識して行っている。</li> <li>・学校単位で温度差があり、対応の仕方に苦労しているのではないかと感じる。</li> <li>・「つながるカリキュラム」参考資料については、生活科で研修を行っており、低学年を担当して初めて分かることが多い。幼小連携研修の満足度は高いが、小学校教員の参加は少なく、今後参加人数が増えることを望む。</li> <li>・自校では、全教員が「幼児期に育てたい力」教職員用指導資料を持っており、1年の担任は参考にしてている。初任者研修等で学ぶことができる。公立園とは交流しているが、私立園とは難しいのが現状である。</li> <li>・アンケート調査は重要で、ウェルビーイングの指標になる。サービスを受けた側の感じ方によるが、満足度を上げていく必要があり、今後どうしていくか考えたい。</li> <li>・授業参観等、小学校から、地域の幼稚園や保育園に発信してもらえるとよい。各カリキュラムがあることを知る機会をもち、互いに理解を深めていきたいと感じた。</li> <li>・小学校・地域により幼小の交流の有無があることに驚いた。推進するリーダー役や展開の仕方を考えていけるとよい。</li> <li>・幼小の連携は必要であり小さいことから小学校にアプローチしていくようにしたい。次年度は、近隣の小学校との交流を再開する。園の手から離れた時により出会いがあってほしい。</li> </ul>				
(2) 令和6年度の「幼児教育・保育の質の向上」等に係る事業等の報告及び令和7年度の方向性について				
<p>●「幼児期に育てたい力」教職員用指導資料及び「つながるカリキュラム」参考資料の活用促進を中心に意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扱いやすさがよい。子供の姿を中心に据えて見ていくことで意識できていく。0～6歳児がつながっていることも確認できるとよい。</li> <li>・「つながるカリキュラム」参考資料について、保育日誌やタブレットで確認できるようにしている。(今は年長担任が主に見ている)まずは知ることが大事と考えている。</li> <li>・市として行っていることが地域や園によって取り組みが違くと、親として不安になる。就学前に小学校の説明会で話を聞くが、園から「市として教育の共通の基盤があり育てたい力が育まれているから大丈夫。」と言ってもらえると安心する。</li> <li>・教育の機会の均等とはいえ、園の取り組みには幅がある。どの園でも最低限身に付けたい資質を育み小学校に送ることになっていけば、保護者は安心する。学ぶ内容に大差がないことが重要で、浜松市として「幼児期に育てたい力」の発信や浸透のための環境が求められる。学校側が、幼児期に身に付けているものを知るための情報交換が必要である。</li> <li>・受け取る学校としては、各園でやっていることが様々であるという印象。園の特色は大事で、園ごとに区切るの難しい。園として学校として、つながりたいという思いがあれば、その場を作ることが必要である。</li> <li>・様々な就学前施設があり、活動や経験は違っても、目的や育つ力を共有することはできる。できる・できないでなく、意欲や気持ち等の見えない力を測定するのは難しいが、「つながるカリキュラム」参考資料では、15の主な活動の中でどんな力が育っているか資質・能力へのつながりを示しているので参考にしてほしい。今後、活用率を高めていきたい。</li> </ul>				
【島田先生より】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意識」と「文化」に触れて考えたい。以前、親の立場で、はますくノートを見た時に、公的文書での記載は有難いと感じた。「幼児期に育てたい力」教職員用指導資料や「つながるカリキュラム」参考資料をどうやって使うかは、一人一人の意識に関わることであり、何気なく見て確認できることもある。資料づくりに関わった人はその意識が高いが、それ以外の人は介入が難しいのが現実である。アクセスしようと思ふ意識を高めていくことが求められる。</li> <li>・映画「小学校～メイキング オブ ジャパニーズ～」では、日本人の習慣がどのようにつくられたか、小学校での特別活動に注目し、日本の文化として興味深く捉えていて、海外で話題になっている。日本でも義務教育である小学校と園は文化の違いがある。同じ子供たちをつないで育てることにおいて、文化を乗り越える努力が必要になってくる。</li> <li>・資料2:第4次浜松市教育総合計画体系図にある「目指すこどもの姿」と「目指す教職員の姿」において、教職員がこうしなければならぬと理想があり過ぎると、子供に身に付きにくいことがあるので、留意したい。</li> <li>・浜松市は、幼児教育・保育の質の向上のための様々なツールが充実している。今あるツールをいかに活用していくか、意識と文化を変えていくことは年月を要するが、オール浜松で、どうしていくとよいか考えていきたい。</li> </ul>				
4 次 年 度 に つ い て	<p>(1) 協議会の実施予定と開催回数について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会は令和7年度も継続して実施し、年3回の開催を予定している。</li> </ul> <p>(2) 委員等の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体に次年度の委員等の推薦を依頼する。</li> </ul>			